

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472800265	事業の開始年月日	平成12年4月18日
		指定年月日	平成12年3月28日
法人名	医療法人社団 厚仁会		
事業所名	グループホームおおね		
所在地	(257-0003) 神奈川県秦野市南矢名 2-12-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成30年12月23日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様のこれまでの生活習慣を尊重し、それぞれが得意としてきたことや行ってきたことを出来るだけ続けて頂けるよう日比の生活の中に取り入れ、穏やかでいつも笑顔で暮らしていける環境を作り出せるよう職員全体で取り組んでいる。天気の良いときは散歩や買い物など出来るだけ屋外に出るようにし、お花見やドライブ、クリスマス会など行い、その季節を感じたり、楽しんで頂けるよう努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成31年1月29日	評価機関 評価決定日	平成31年4月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急線東海大学前下車、徒歩5分、駅前商店街から少し入り、高台にある法人の大きな病院に併設された介護老人保健施設の2階にあります。敷地内に公園があり、事業所前は地元大学への近道となっていて、終日学生が往来しています。近くに大学商店街や住宅地もある住環境です。

<優れている点>

事業所の理念に「高齢者が地域社会の中で、自立とふれあいを大切に、豊かで明るく健やかに暮らせること」を掲げています。散歩や買い物、花壇の手入れ、梅干しや白菜漬けなど季節の移ろいを普段の生活の中に取り入れ、明るく健やかに皆が仲良く暮らせるよう、理念の実践に取り組んでいます。法人の母体は大きな病院であり、併設の介護老人保健施設などと日頃から連携しています。利用者はもとより、家族も安心、安全です。居室や共用空間も広く、居室にはベッドや障子戸の和洋折衷、トイレ、流し台などを備え、利用者一人ひとりが自由な暮らしが出来るようになっています。職員の出入りも少なく、経験豊富な管理者と職員を擁し、法人内の研修も盛んで、安定したサービスと職員の資質の向上に取り組んでいます。

<工夫点>

居室やリビングの前の廊下は広く、長い通路は両側に手摺も備えています。利用者は日常生活の中で歩行やリハビリに利用し、残存機能の維持の支援に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームおおね
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域社会の中で自立とふれあいを大切に豊かに明るく健やかに暮らせることを理念に掲げている。日々の申し送りの中で話し合いを持ち、共有・実践に努めている。	理念は開設時に皆で相談して作っています。事務所に掲示し、職員は理念をネームプレートに入れて携帯しています。普段の生活の中に季節の行事などを取り入れ、利用者も職員も毎日仲良く、楽しく過ごせるよう理念の実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の夏祭りやどんど焼き、市主催のセンターフェスティバルに参加したり、ご近所の方の家の庭で果物やお花を頂いたりしている。事業所内の公園は地域の方の憩いの場として使われている。	自治会には法人が加入しています。地域の情報は地元職員がもたらしています。日々の散歩コースで近隣の人達とふれあっています。法人の駐車場でどんど焼きを行い、地域の人達と交流しています。開設以来親しく交流を続けています。	町内会や民生委員、福祉団体、社会福祉協議会、ボランティアなど地域の社会資源を活用し、更なる地域交流の拡大も期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事に参加したり、日々の散歩や事業所内の公園にて花を植えたり草取りをしたりしながら、地域の方々に発信している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年6回行っている。年間の活動計画や、日々の活動や近況報告を行い、利用者や家族、地域の代表者からの意見や質問、要望などは職員間で話し合い、サービス向上に生かしている。	2ヶ月ごと年6回開催しています。主な委員は家族や、地域包括支援センター職員、行政職員、地域代表、法人事務長です。活動報告の他、外出先やボランティアの紹介、インフルエンザ予防、避難訓練など意見交換が行われ、運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎月の入居者連絡票の書府や運営推進会議時、来初する担当者と意見を交換したり情報を共有したり出来ている。	運営推進会議の報告や介護認定の申請代行など行政と連携を図っています。市外（厚木、伊勢原）のグループホーム連絡会に参加し、情報交換しています。市の福祉フェスティバルに参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内で行われている勉強会に参加し、身体拘束に該当する行為を学び・周知し、拘束しない支援に努めている。エレベーターは夜間帯・非常階段は安全のため施錠している。	事業所の方針は契約書に謳っていません。県の「身体拘束ゼロ」の標語の掲示、拘束廃止推進委員会の発足などで周知し、拘束のないケアに努めています。不適切な言葉があれば職員相互で注意しています。2階事業所へのエレベーターは夜間のみ施錠をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内で行われている勉強会に参加している。申し送り等で言葉使いや排泄介助時の対応について話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者様のご家族からの相談は管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居相談時より利用者及び家族からの問い合わせには管理者より説明行いご理解頂けるよう心がけている。契約の際は契約書及び重要事項説明書等で説明し、ご理解を頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に意見箱を設置している。運営推進会議にて意見や要望を聞き、対応している。また、利用者や家族からの日常生活での要望や不安な点は都度職員が対応し、対応できない場合は後日管理者が対応する。	家族の面会時や運営推進会議で家族の意見や要望、提案を聞いています。毎月家族のもとに、利用者の生活状況、心身の状況などを送付し、コミュニケーションを図っています。外出先や洗面所などのペーパー類の管理の意見、要望を運営に活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回行われているカンファレンスにて管理者や法人担当者に職員の意見や要望を聞く機会を作り、行事や介護方針などの提案があり、運営に反映させている。また、日々の申し送りで出た意見や要望は必要時管理者より代表者に報告している。	毎月のカンファレンスの際、職員の要望や意見を聞く機会を作っています。シフト調整で休憩時間の確保、買出し品の一部宅配への切り替え、行事やイベントの企画提案など、職員の要望や意見を取り入れ、運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格者や能力給を設け、職員の資格取得やケアの向上に努めている。3～4日の希望給を取り入れたり、労働時間内に業務が終えるように業務内容を調整したり職員が働きやすい環境を整えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの希望や力量に応じて、法人内外の研修や他グループホームとの相互研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣事業所との協議会を持ち、情報交換や相互研修としてお互いの事業所を訪問して職員の交流や質の向上に努めている。秦野市で行われている福祉フェスティバルに参加し、市内の他のグループホームの職員との交流する機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に施設内の見学や管理者との面談を行い、疑問や不安、要望等を聞く機会を設けている。必要に応じてお茶や食事など体験入所を勧め、ホームの雰囲気を知って頂く機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の段階により本人や家族が不安に思っている事や訴えに対し納得して頂けるまで何度でも聞き取り、サービスに反映できるよう対話を通して信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現時点で利用者が必要としているサービスについて家族・本人と話し合い、支援の調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の体調や行動を考慮し、毎日の家事の仕事、料理の手伝いや洗濯物畳み・干し、レクリエーションに参加して頂いている。人生の先輩であることを常に思い、笑顔で会話が弾むような声かけや誘導を心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月手紙にて近況をお知らせしている。来初時には廊下や居室に飾ってある写真など見ながら日常の生活の様子をお話しし、本人の状況を共有出来るように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人が来初した際は心地よい時間を過ごせるよう環境を整えたり、調整を行っている。家族や希望者には事業所の機関誌を年4回送付したり、年賀状を送ったりしている。また、居室に電話を設置している。	手紙や電話での交流継続支援をしています。馴染みの美容院が事業所へ出張してくれ、関係を継続しています。家族の協力で一時帰宅をする利用者もいます。縫い物や習字、趣味、佃煮や梅干しなどの嗜好の継続も支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや家事の手伝い、季節の行事などを通して利用者同士若い頃の話や出身地の思い出等を語り合いながら利用者同士の関わり合いを深め、お互いを支えあえるような関係を築けるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族や関係者などから契約が終了した後の本人や家族について相談があった時は、必要に応じて話し合いの機会を持つよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がやりたいこと、してほしいことをその都度聞きながら職員間で話し合い、実現できるよう努めている。意思の疎通が困難な方には家族からの意見や普段の行動を観察し、意向を汲み取るよう職員間で検討し、支援している。	好きな物や事、したい事、嫌いな事などを問いかけて把握しています。入浴などの1対1の場や、相性の合う人などを通して把握する場合があります。意思表示の困難な利用者は表情や態度で汲み取る他、以前の記録や生活歴から把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にはご家族や本人からこれまでの生活歴などをお聞きし、職員間で情報を共有している。また、家族の面会や本人との日々の会話の中から生活過程の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	特記事項表や個人記録表にてバイタルや食事摂取量・一日の過ごし方や本人の様子など記録し、職員間の情報の共有や現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族と今後の暮らしの希望や要望、本人の課題など話し合い、介護計画に反映している。必要に応じて医師や看護師の意見を取り入れている。	カンファレンスは毎月行い、通常は年1回の見直しをしています。見直しやケアプランは、職員や計画担当者、管理者が参加する担当者会議を経て作成しています。ケアプランには利用者や家族の意見、医療情報が反映されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録表にて水分・食事摂取状況、体重・血圧、与薬状況、日々の状態等を記入し、情報共有している。また、特記事項表にて日々の様子や状態を分かりやすくし、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	OTやデイケア、管理栄養士等法人内のスタッフを利用してサービスに対する助言を得たり、幅広い支援を出来るよう努めている。また、利用者の個別の要望に応えられるよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のお祭りや催しに参加したり、近辺への散歩の折、近所の方々と気軽に挨拶したりなじみのお宅に立ち寄りさせて頂いたりして地域の方々との交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月一回法人内の病院にて主治医による内科検診がある。必要時、他科受診を行えるようご家族の協力を得ながら支援している。	法人母体である協力医療機関から月1回利用者全員が内科を受診しています。歯科医も土曜日に希望者が受診しています。整形外科などへの受診は家族が対応し、受診後に家族から報告を受けて、申し送りや個人記録で情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご本人の日々の状態を観察し、異常時には法人内の病院やデイケアの看護師に相談し、受診や処置が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は施設での情報は管理者が必要な情報を提供する。入院後は家族は病院関係者と情報交換しながら本人の現状を把握し、早期の退院に向けて事業者で対応が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	現在、事業所では看取りは行っていない事や、重度化した際の対応について、退去の時期や目安について、入居契約時より説明を行っている。重度化した際、医師や管理者からご家族に説明を行い、ご本人の状況に合う環境を提案している。	契約時に事業所は看取りを行わない方針であることを家族に説明し、必要な場合は特別養護老人ホームなど他の施設を紹介しています。重度化の場合は、医師や家族と話し合い、医療機関や他の施設に移れるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルがあり、事業所内に掲示し、周知している。法人内で定期的に勉強会があり、職員が参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法人内で年二回の避難訓練と消防訓練を行い、避難経路の確認や災害時の対応の訓練を行っている。今年はグループホームの台所が火元として訓練を行っている。	併設の介護老人保健施設と合同で3月と10月に災害時の総合訓練を行っています。災害に備え、水や非常食などを法人が管理・保管しています。事業所の日用品や米などは常に在庫があり、事業所で把握しています。建物は耐震構造で非常電源が作動します。	備蓄品は法人管理ですが、備蓄内容や保管場所について事業所職員などが常に把握できるように、表示しておくことも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄や入浴の介助などご本人が恥ずかしいと感じやすいような場面では周りの方に気付かれないような言葉かけや介助を行い、ご本人のプライバシーと羞恥心に配慮して対応するよう心がけている。	トイレと洗面台が各居室にあり、プライバシーと羞恥心に配慮できる造りになっています。利用者を尊重した言葉遣いに努めています。5月に法人の接遇研修に参加し、資料を回覧共有しています。個人情報に関する書類は机に保管し施錠しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話や行動の中から利用者が自分の意志や希望を実現しやすいような環境を作り出すようにしたり言葉かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	会話の中から利用者の要望・希望をとらえ、出来る限りお手伝い出来るよう努めている。また、自分の意思を発言出来ない方でも表情や態度などから本人の意思に近づけるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装や、洋服・下着などその時々合ったものを用意し自分でも選択出来るように声かけ、用意している。整髪は家族の付き添いをお願いしているが、定期的に近所の美容師に来所してもらい、散髪を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューや好みなど利用者と相談し、調理の下準備や盛り付け、食器の片づけなど一緒に手伝って頂くことで食事を通して皆で一緒に生活しているという実感、喜びを持ってもらえるようにしている。誕生日や祝日などは行事食を作ってお祝いしている。	食事を担当する職員が利用者と相談して献立を作り、ミキサー食なども提供しています。ケーキやおせちを提供したり外食に出かけるなどして食事を楽しんでいます。利用者は食器洗いや調理の下準備を手伝っています。職員と一緒に漬物、梅干、干し柿などを作り、食卓に上っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食ごとに食事・水分摂取量、カロリー計算の記録を行っている。各利用者のし好や状態に応じて食事の形態や調理法を変えたり、摂取量が少ない方には補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の歯磨きの声かけ、見守りを行い、必要時には介助を行っている。義歯は夕食後洗浄剤にて殺菌洗浄を行い、歯ブラシは昼食後熱湯消毒し日光乾燥を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の日々の動きや行動の観察、排泄の時間や回数を個人記録表に記録し、トイレへの誘導・介助を行い、トイレでの排泄の支援に活かしている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援しています。パッドの品質を換え交換回数を減らすなど工夫し支援しています。夜間は、定時誘導や大きなパットに替えて安眠できるよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、体操や廊下歩行、散歩等からだを動かすように心掛けている。食事は野菜・水分等を多く摂るようにしている。各自排泄量を記録し、必要に応じて便秘薬を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の曜日は決まっているが、希望する時間や順番を聞きながら対応している。自立されている利用者の入浴では職員は立ち入り過ぎずマイペースで入浴できるよう努めている。介助の必要な利用者は浴室内のプライバシーを守りつつ洗身・洗髪等の支援をしている。	リフトの設備があります。利用者は概ね週3回のペースで入浴しています。現在、入浴を拒む人はいません。一番風呂、複数人での入浴、長湯など、利用者の希望にそって入浴を楽しめるよう配慮しています。ゆず湯などでも入浴を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の希望や季節を考慮して快適に過ごして頂けるように室温や光量、音調や寝具調整等を行う。寝具は週一回は洗濯し清潔を保ち、安心して気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬リスト集にて利用者ごとの服薬情報を把握している。処方薬の変更の際は受診ノートや申し送りを通して各自周知するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの得意とする事を活かして日常生活のお手伝い（野菜の下ごしらえや盛り付けなど台所のお手伝いや洗濯物の片づけ、裁縫など）や、昔から好きだったこと（歌や塗り絵、活け花等）を行い、張り合いや喜びを感じる日々を過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご本人の希望をお聞きし、散歩に行ったり、買い物の付き添いを行っている。年中行事として花見や外食などドライブに出かけたりしている。親族の誘いで外出することもある。	個々のリズムや要望に合わせて散歩や買物、祭りなどの地域の行事、公園の球根の植えつけ、季節の花見などへ積極的に出かけています。車いすの人も同様に外出しています。家族の協力を得て自宅への立ち寄りや外食に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持を希望される方には、家族と相談し、自己管理してもらっている。買い物の希望がある時は本人と一緒に出かけたり、職員が買ってきて本人に渡すこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	各居室に電話を設置しており、いつでも使用できるようにしており、自ら電話が出来ない方には職員が支援している。家族や友人からの手紙を取り次いだり年賀状など書ける方には書いて頂くよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂や廊下に季節の花を飾ったり、外出時や日ごろの写真、作品を掲示し皆で見て楽しんだり、家族の来所時に日常の様子が分かるようにしている。廊下や通路は車椅子で通れるように整理している。暖色系の照明を使用し、室温調整を行い心地よく過ごして頂くよう努めている。	食堂は広く開放感があり、廊下は利用者の歩行練習ができる十分な幅と長さがあります。開所から18年を経過していますが、共用空間は気になる騒音や臭いもなく、床などは清潔に維持されています。季節感を採り入れて、玄関や廊下に書初めなどの季節の作品を掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂や玄関前にソファを置き、一人の時間を過ごしたり、利用者同士やご家族、知人の方と過ごしたり、それぞれが自由に利用できるような場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人が長年利用されていた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、テーブルや壁には誕生日の写真立てや壁飾りが飾られていて穏やかに過ごせるよう心がけている。	居室内は、エアコン、クローゼット、机、椅子、電話、照明が備えられています。トイレと洗面台の設備があり、他は持ち込み自由です。部屋ごとに整理ダンス、テレビ、写真など利用者の好みの物を置き、利用者は居心地良く過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内はバリアフリーで各居室にトイレ、流し台、空調設置し、廊下に手すりを取り付けてあるトイレや居室に分かりやすいように目印をつけたり、スケジュール表を貼りご自身で判断が出来やすいようにしている。		

平成30年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム おおね

作成日: 平成 31年 4月 20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流やボランティアの活用が少なく、利用者の日々の生活が単調になってしまう。	地域の行事や防災訓練に参加したり、ボランティアの活用を拡げていきたい。	地域の広報や回覧板などで行事を把握し、参加する。福祉団体や社会福祉協議会を通してボランティアの情報を入手し活用につなげる。	12ヶ月
2	13	避難訓練は行っているが訓練通りの動きが出来るか不安がある。避難後の利用者の対応などに不安がある。	全職員が避難訓練に参加する。グループホーム内に災害用備品を整備する。	法人内の避難訓練に参加できなかった職員は個別にグループホーム内で避難訓練を行う。グループホーム内の備品リストを作る。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。